

第18回コープ福祉フォーラム 人と人がつながって 家庭～地域～社会へと 広がる一歩を

家庭や地域の目線で「福祉」を学び・交流する場として、毎年開催している「コープ福祉フォーラム」が、今年も県内2カ所で開催されました。思春期の子どもを取り巻く問題や人と人のかかわりの大切さなどを学び、一人ひとりが一歩を踏み出す“キッカケ”づくりとなりました。

1月29日 浦和（南部）会場 76人参加

「思春期を考える」 ～子どもたちへの愛、命の大切さ～



さいたま教育文化研究所の
齋藤晴雄さん

さいたま教育文化研究所の齋藤晴雄さんを講師に、思春期の子どもを取り巻くいじめの問題や子どもが加害者となる事件などから親や学校のかかわり方を学びました。齋藤さんは、子どもに対する大人の否定的な見方や言い方を改め、家庭ではありのままを受けとめ、愛情をそそぐ「子どもを見る目は、あばたもエクボ」が大切と話し、参加者に「大人の生き方を見直し、日常生活から『命の大切さ』を教えてください」と呼びかけました。

2月21日 新都心（中部）会場 63人参加

今こそ、お互いさま！ ～人のかかわり、自分らしく ありのまま 支えあおう！～



埼玉大学教育学部
岡幸江助教授

「いま生きることが大変で、自分でがんばれば何とかかなと思いき、結果的に人とのつながりが切れてしまっているのではないかと話す、講師の埼玉大学教育学部・岡幸江助教授。参加者と共に10年前に比べ便利になったこと、反対に失ってしまったことを考え、その中から「人と人とのコミュニケーションや地域でのつながりに目を向け、つながりあうための一歩を踏み出して」と話しました。



1月31日 エコライフ学習会

「電気ダイエット」表彰と 異常気象と地球温暖化の学習



“環境に対して取り組むキッカケ”として、毎年行われている「家庭の電気ダイエットコンクール」の取り組みに、2006年度は537人が参加。その上位入賞者の表彰と、気象予報士の井手迫義和さんを迎えた学習会に、68人が参加しました。井手迫さんは身近なさいたま市の気温や季節の変化の事例をあげて温暖化の状況や影響を話し、「この問題にみんなが気づき取り組む『今日を記念日に』して」と訴えました。

2月23日 JA女性協と生協ネットワーク協議会

なごやかに “第12回早春交流会”



東松山市中央公民館を会場に、今年は43人が参加。JA埼玉中央の地元農産物を使った加工品の取り組みや福祉活動として取り組んでいるミニ

デイスサービスの報告後、JA女性協の指導のもと「まんじゅう」の調理実習。デイスサービスで出されているお弁当と一緒に試食しながら、直売にける生産者の思いや活動について質問や感想などを出し合い交流しました。

3月20日 新聞に生協特集を掲載

“食の安全・安心”について 岡島副知事と懇談



食の安全・安心に対する消費者の関心が高まる中、埼玉新聞に“食の安全・安心”をテーマに埼玉県生協連伊藤専務理事と埼玉県岡島副知事、聞き手に埼玉新聞丸山社長を迎えての懇談を掲載しました。3月12日「日本一の食の安全立県埼玉県宣言」が埼玉県議会で決議され、食品の安全を確保するための社会システムの向上を協働して行っていこうと語りました。あわせて、会員生協の取り組みなどを掲載しました。

3月20日 埼玉県生協役員研修委託事業

消費者団体訴訟制度と埼玉消費者 被害をなくす会の活動を学習



NPO法人埼玉消費者被害をなくす会理事の長田 淳弁護士を講師に学習
今年6月施行の「消費者団体訴訟制度」と適格消費者団体を目指すなくす会の活動などについて、長田弁護士を講師に35人（未加盟生協含む）の参加で学習しました。「消費者被害が多様化し限りなく犯罪に近い被害が増えており、一般的に使われている契約書でも不当契約条項があるなど問題が多く、その救済には『消費者団体訴訟制度』は有効」と話し、なくす会のこれまでの取り組みを紹介しました。

小学生の見学用「さいたまコープガイド」を作成

社会科見学などで、昨年4月から今年の1月までに小学校25校、1,742人の小学生が店舗を見学しました。児童の皆さんはこれまで、職員の説明を聞きながらお店の中を見て歩き、「スーパーマーケットを調べてみよう」「品物の種類やならべかたを見てみよう」などのテーマで学習をしています。ガイドは、そうした見学や説明の際のポイントをまとめ、小学生の教科書を参考に見やすくと見学の記録として残せるよう工夫されています。



2007年度市民活動支援金の公開選考会を開催

2月29日組合員施設「すぺーす・ドゥ」において、市民活動支援金運営委員と一般組合員が参加して初の選考会が行われました。公開選考会は支援金助成の透明性・公開性を高め、組合員に助成内容や市民団体への理解を広げることを目的に行われたもので、当日は県内各地でそれぞれ課題に取り組む11団体の報告のあと選考が行われました。



映画監督の鎌仲さんを招いて講演会

3月5日、映画「ヒバクシャ世界の終わりに」や「六ヶ所村ラブソディ」の監督の鎌仲ひとみさんを招き講演会を行いました。監督の視点がヒバクシャから六ヶ所村核燃料再処理施設に移っていった経過や、アメリカがイラクを攻撃した時に使用した劣化ウランが、今日の原因につながっている事などを聞きました。今後も、放射能汚染の広がりを調査した水口憲哉先生の講演や、六ヶ所村周辺生産地の見学や視察ツアーを計画しています。



第5回「庄内産直ネットワーク」総会

2月17日山形県鶴岡市三川公民館で総会が行われ、約80人の生産者などが集まりました。総会では、ユーアイコープと春・秋に取り組む農作業体験交流、環境保全・循環を目指す農法の取り組みと生き物調査の実施内容の報告などが行われました。

午後からは第3回「環境創造型農業研修会in庄内」が約130人の生産者などの参加で行われ、庄内での実践活動報告や体験発表などが行われました。



首都直下地震を想定した図上演習で今後の課題が明確に

2月17日コープネット（7会員生協）グループの図上演習に、日本生協連なども含め84人が参加しました。当日は、日本生協連・中央地連の「広域連携プログラム」をもとに、ネット合同対策本部による被災生協・非被災生協・行政の3つの同時対応などについて行い、支援グループ生協の組織化や、日本生協連（商品・システム等）との連携の強化など、今後の課題が明らかになりました。



「第34回全労済小学生作品コンクール」の入賞者を表彰

子どもたちの豊かな心の成長を願い、社会貢献活動の一環として取り組んでいる「全労済小学生作品コンクール」の表彰式を2月17日行いました。金賞と銀賞の入賞者36人の小学生に、賞状と記念品を佐野理事長より授与しました。作品は、表現の仕方はさまざまですが、一人ひとりが日常で見つけた感動を表現しています。この作文（212作品）と版画（1,297作品）の全作品を4月19日まで県本部会館2階ギャラリーで展示します。



より良い事業所運営を検討する「懇談会」を各地で開催

組合員・利用者とともに、病院・診療所などの事業所のより良い運営について検討する「懇談会」を、今年も2～3月に行いました。懇談会では、事業所を利用して感じること、要望や提案、気持ちよく利用しやすい事業所に向けての意見交換などが活発に行われました。あさか虹の歯科では23人が参加し、歯科医師による学習会の後、待ち時間や職員の連携の改善について話し合いました。



年間をとおして生協学生委員会（＝コープガールズ）が大活躍

生協学生委員会（通称：コープガールズ）が主体となり、様々な活動を行っています。お店を切り絵やPOPで飾って季節感を感じてもらおう活動。年に2回行われる、食生活や体調管理意識を持ってもらうための「食生活相談会」。リサイクル意識を高めるための「古本市」。季節毎のイベントやお店に置くためのお菓子の新製品試食会など、元気いっぱいのコープガールズ達が運営しています。

